

八戸市美術館ボランティアだより

# ハビボ通信

八戸市美術館

〒031-0031

青森県八戸市番町 10-4

TEL0178-45-8338

## ～今、国宝「合掌土偶」が面白い～

八戸市美術館「ハビボ会」会長 安藤清一

縄文時代を特徴付ける遺物の代表として、縄文土器と土偶が挙げられる。土偶は「人形(ひとがた)」を造形したものである。縄文時代の草創期にはすでにみられ、約1万年間営まれた縄文時代の各時期に様々な姿かたちが造形された。土偶は縄文文化を代表する遺物のひとつで、東北地方から多く出土している。

日本美術を評価し、縄文時代を特徴付ける遺物の代表として、縄文土器を世界に紹介したことで知られるアーネスト・フェノロサ(アメリカ人)が、1897年(明治30年)に日本で初めて「国宝」という語を使用した。日本の国宝指定件数は1076件(建造物214件、美術工芸862件)である。

八戸市風張1遺跡出土の「合掌土偶」が国宝に決定したことを記念し、市博物館は国宝指定記念特別展「土偶展―東北の北と南―」を開催した。3月に国宝指定が決定してから、合掌土偶が博物館で展示されるのは初めて。6月13日(土)のオープン初日、八戸市博物館協議会会長の私もイベントに出席させていただいた。

写真は児童科学館の合掌土偶レプリカです。持ったり、触ったり、自由に体験をどうぞ!



オープン当日の安藤会長

この秋、文化庁が大英博物館で「土偶展」を開く。青森の文化が生んだ土偶たちが海を渡り、その優しい表

情で石の文化の人々と向き合う。日本固有とされる縄文文化が西洋人の目にどう映るのか。言葉を越えた対話が楽しみだ。

青森県内の国宝がすべて八戸にあるというのは興味深い。1953年に指定された櫛引八幡宮の「赤糸威鎧(あかいとおどしよろい)」「白糸威褌取鎧(しろいとおどしつまどりよろい)」以来、56年ぶり3件目。八戸市から出土した国宝「合掌土偶」をはじめ、各地の出土を通して縄文文化の精神文化、そして形象からみた地域差や当時の風俗について考えてみるのも面白い。縄文文化の魅力を世界に発信する格好の場だろう。



(国宝指定を記念して発行された50円切手)

### <国宝「合掌土偶」、ただ今海外出張中>

合掌土偶は9月10日から11月22日までロンドンの大英博物館で開かれる「土偶展」とその後12月から来年2月まで、東京国立博物館で開催される『土偶展』帰国展』に出品されることになっていて、現在、留守中。帰八は来年3月の予定です。

	<h2 style="margin: 0;">「鈴木コレクション秀作展」</h2> <p style="margin: 0;">～コレクション10年のあゆみ～</p>	
--	---	--

157点にも及ぶ鈴木コレクションの中から、横山大観、岸田劉生、東郷青児、棟方志功の名画をはじめ、郷土の画家久保田政子、大久保景造の作品まで、選りすぐりの秀作が7月18日(土)から8月23日(日)まで公開され、多くの入場者で賑わいました



鈴木ご夫妻を真ん中にテープカット



中央の絵は東郷青児の「女と白鳥」(100号)



鈴木コレクション「女性シリーズ」の中から

オープン初日、ハビボ会からも参加して会場のお手伝いを。  
案内係りの吉田さんと浅野さん、お疲れ様でした！



春の研修旅行は  
「ウィーン美術史館蔵 静物画の秘密展」



5月28日(水)、青森県立美術館の「ウィーン美術史美術館蔵 静物画の秘密展」に出掛けました。「静物画の秘密」をテーマにルーベンス、ヤン・ブリューゲル、ベラスケスなどの名作75点が展示されていて、中でもベラスケスの傑作「薔薇色の衣装のマルガリータ王女」には圧倒されました。  
輝くような絹地の衣装と王家の品位をたたえた王女の愛らしさを前に佇むことしばし…。名画の持つ力です。

## ハビボ会主催 水彩画教室

6月から9月までは水彩入門としての水彩画教室、10月から1月までは油絵入門としての油絵教室が毎年、美術館で開かれています（どちらも隔週金曜日開催）。

教室が始まったのは7年前の2002年。毎回、定員20名を越す申し込みがあり、中には連続で参加している方もいる人気講座です。

講師はハビボ会のメンバー安藤清一さんと浅沼弘さん。初心者にも優しく、丁寧な指導が好評です。参加者は小学生や10代後半の美術大学受験者から上は70代までと年代も幅広く、毎回、個性豊かな作品が完成するとか。

さて、今年はどんな傑作が生まれるでしょう？



モデルさんを見つめる目は真剣そのもの



デッサン中・・・



そして3ヵ月後・・・完成です

## ♪ お楽しみ納涼パーティ ♪



7月24日(金)、納涼パーティが八戸グランドホテルで開かれました。ハビボの納涼パーティは熱く燃える会なのです。今流行りのフラダンスの場面では、名スタイリストがいるお陰で、扮装ゲームよろしく女性会員がフラガール姿で登場。会場は爆笑の渦に包まれました。納涼パーティもボランティア活動も思いっきり楽しく！これがハビボ会のモットーです

## いとも美しき 西洋版画の世界

～線がつむぎだす「ものがたり」～

4月25日(土)から5月31日(日)まで開催された特別展「いとも美しき 西洋版画の世界」にハビボ会からも大勢の会員が参加しましたが、お手伝いの須川福二さんと岡本裕美子さんから次のような感想が寄せられました。

### 「ボランティアを体験して」

須川 福二

37日間の長期に亘る企画展のうち20日間の監視役を担当しました。ほとんどの作品が白と黒の世界のためか、入館者は油絵展の時より少ない感じがしました。しかし、鑑賞する方はじっくりと注意深く鑑賞していました。

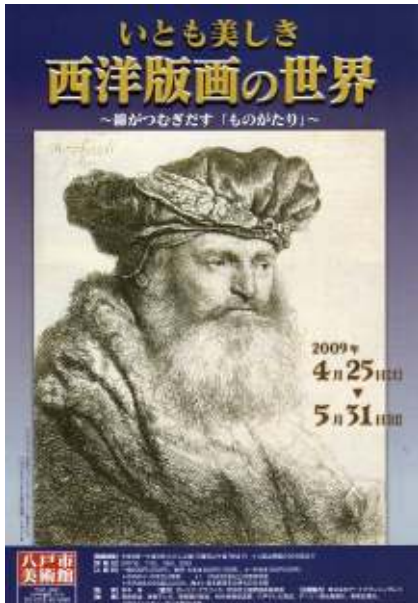
特に印象に残ったのは子供連れの家族で、「何を描いているのかな？」との子供の質問に対して、親が一生懸命答えている姿でした。そして、それが家族全員の会話になっている光景でした。そこに版画を通してのほのぼのとした家族の美しい世界を発見し、感動を覚えたことが今回のボランティアを通しての私の大きな収穫でした。

### 「美術館へGO！」

岡本 裕美子

私は美術館が大好きです。絵画も人なり、無音の中テレポートしたり、すれ違ったり様々に感じて親しむことができます。先般の「いとも美しき 西洋版画展の世界」において代表はレンブラントでしょう。彼は300点に上る銅版画を残したエッチングの巨匠で、宝章のついたヴェルヴェット帽をかぶり、口ひげをたくわえた男の肖像は触れてみたいくらい見事でした。

もう一つはケーテ・コルヴィッツの「机の前の自画像」です。物憂げな、暗く決意を秘めた表情に吸い寄せられました。彼女は19歳の次男を戦争で失い、それ以降、医者である夫とともに弱者の側に立ち、反戦と悲しみを強く表現した人。時を越えて彼女の想いが私の感性とリンクしたのです…。日々の生活では気づかない発見と喜びがある美術館へあなたもいらっやいませんか。



## 編集後記

読む立場から作る立場になり、いろいろとわからないことだらけで苦勞致しました。作る喜びを感じながらの作業でした。(磯 沼)

60の手習い！この歳になって、やったこともない広報紙作りにかかわろうとは。しかもパソコンで…。試行錯誤悪戦苦闘の結果の「ハビボ通信」第17号をお届けします。(岩 崎)

### 「郷土の偉人 西有穆山展」開催迫る！

八戸に生まれ、曹洞宗第7代管長でもあった西有穆山の没後100年を記念して、墨蹟や関連資料の展覧会が11月21日(土)から12月20日(日)まで市美術館で開かれます。

### 新会員です どうぞヨロシク！

佐藤 よし子

・八戸市出身・主婦

・油絵の中でも静物を描くのが好きで、大久保景造さんの「パレットの会」に十年ほど入っていました。

郡司 良子

・八戸市出身・主婦

・美術館のすばらしさに惹かれて現地のボランティアグループに入って十二年。今も年に六、七回熱海に出掛け、活動しています。

岡田 孝子

・八戸市出身・主婦

・美術館めぐりが大好き。印象に残っているのは碌山美術館(長野県安曇野市)です。レンガ造りの建物がとても素敵でした。